

マンション クロス張り工事施工計画書

1. 総則

(1) 適用範囲

本施工計画書は、**マンション新築工事**における内装ビニルクロス張り工事**(直張り)**に適用するものである。

(2) 計画の変更および追加

施工に際しては、モデルルーム  
他各種提案をとり入れ、よりよ  
の指示徹底を図りながら作業を

、仕様・割付けなどを決定するが、その  
画の変更・追加がある場合は、関係者へ

2. 一般事項

(1) クロス張り工事概要

(1) ビニルクロス材	
(2) 施工部位および 施工方法	住
(3) 施工数量	11
(4) 下地の種類	コ ブ
(5) 施工範囲	

〇〇	
り工法	
〇〇〇m <sup>2</sup>	
m <sup>2</sup> m <sup>2</sup>	(1 住戸当り)
にて調整可能な下地の不陸などとする)	
)	

(2) 専門工事業者の施工組織

元 請

TEL 03-9988-4545

一次下請

 担

TEL 03-5432-1234

二次下請

内装株式会社  
担当

TEL 03-1234-5678

三次下請

有限会社 工業  
代表取締役

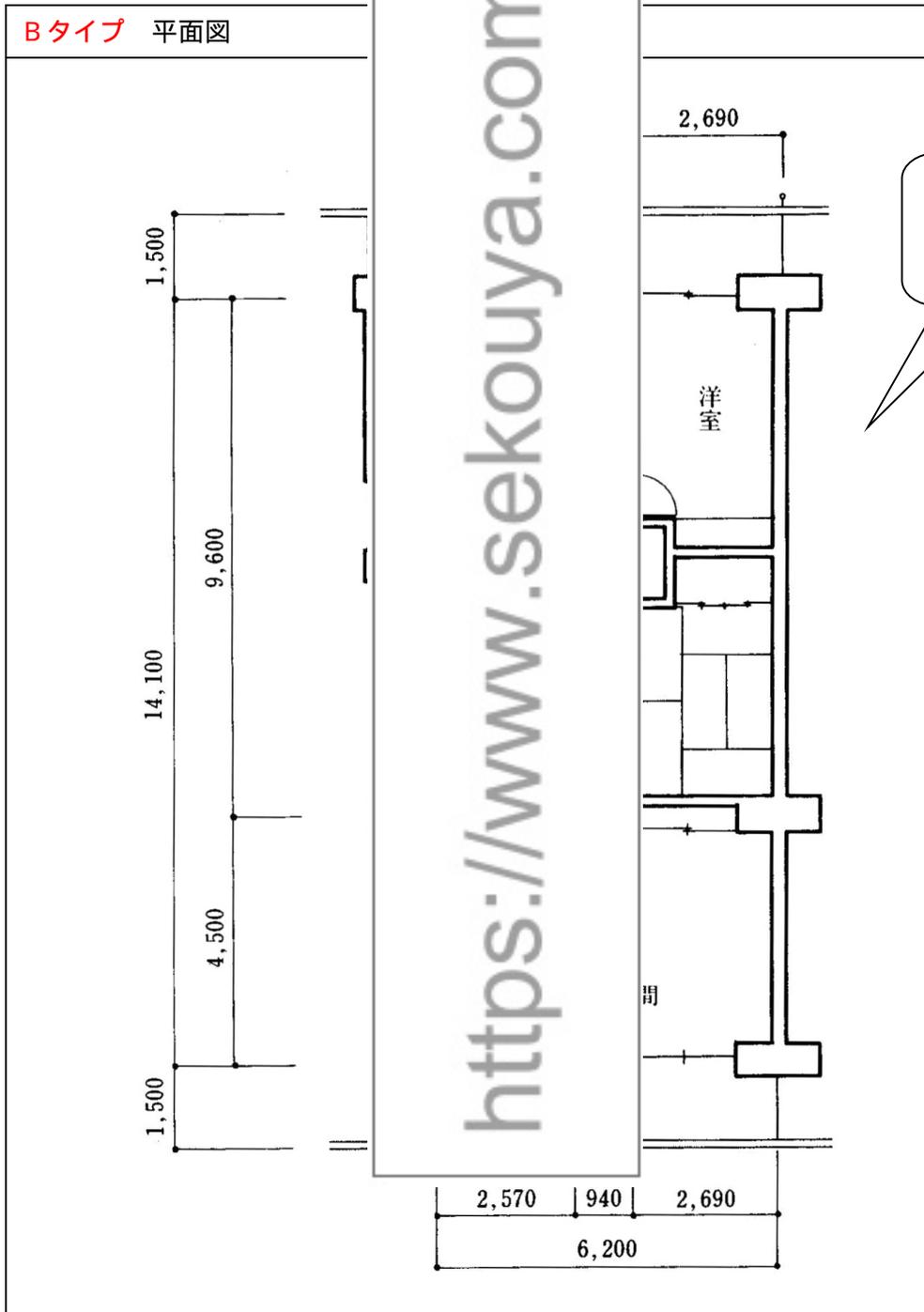
TEL 03-3265-9988

<https://www.sekouya.com>

職 長  
作業員

1 級技能士

( 3 ) 住戸平面図



(4) 工程計画

クロス張り 1組2人	2組(4人)投入 1フロア7日とし、2Fに上がり順次上階へ施工を進め、1Fは 最後とする。
---------------	---

(5) 要求品質・設計仕様

(1) クロス材料
(2) 施工方法
(3) 出来上がり品質
(4) 見本品の提出および モデルルームの施工

程度 代理店：(株)
ジョイントは重ね裁ちとする。
ジョイント部分を含めて不陸が目立た
とともに、カビの発生がないこと。
どについて確認するため、施工時期を考 提出し、監理者の承認を得る。
用として施工するモデルルームにて、材 する。

3. 使用材料

(1) 主材料(クロス材料)

メーカー名	製造
仕様・品番	ビニ

JIS A 6921〔壁紙〕の JIS マ  
紙裏打ちされたもので、柄合

材 料	等 級
壁 紙	F

商事(株)
規格幅 920mm × 50m

第 123 号〔準不燃材料〕の認定品。  
がある。

備 考
理制度 (Web, ラベル表示) あり

<https://www.sekouya.com>

( 2 ) 副材料

接着剤	下記を水と混合して使用する。		
	酢酸ビニル系エマルジョン	(株)	商品名
	澱粉 ( JISA6922 )	(株)	商品名
下地調整剤	シーラー		(株) 商品名
			及会の定める品質基準に合格するもの)
	パテ		(株) 商品名
			及会の定める品質基準に合格するもの)
その他	養生用ビニルシ		

4 . 運搬・搬入・保管

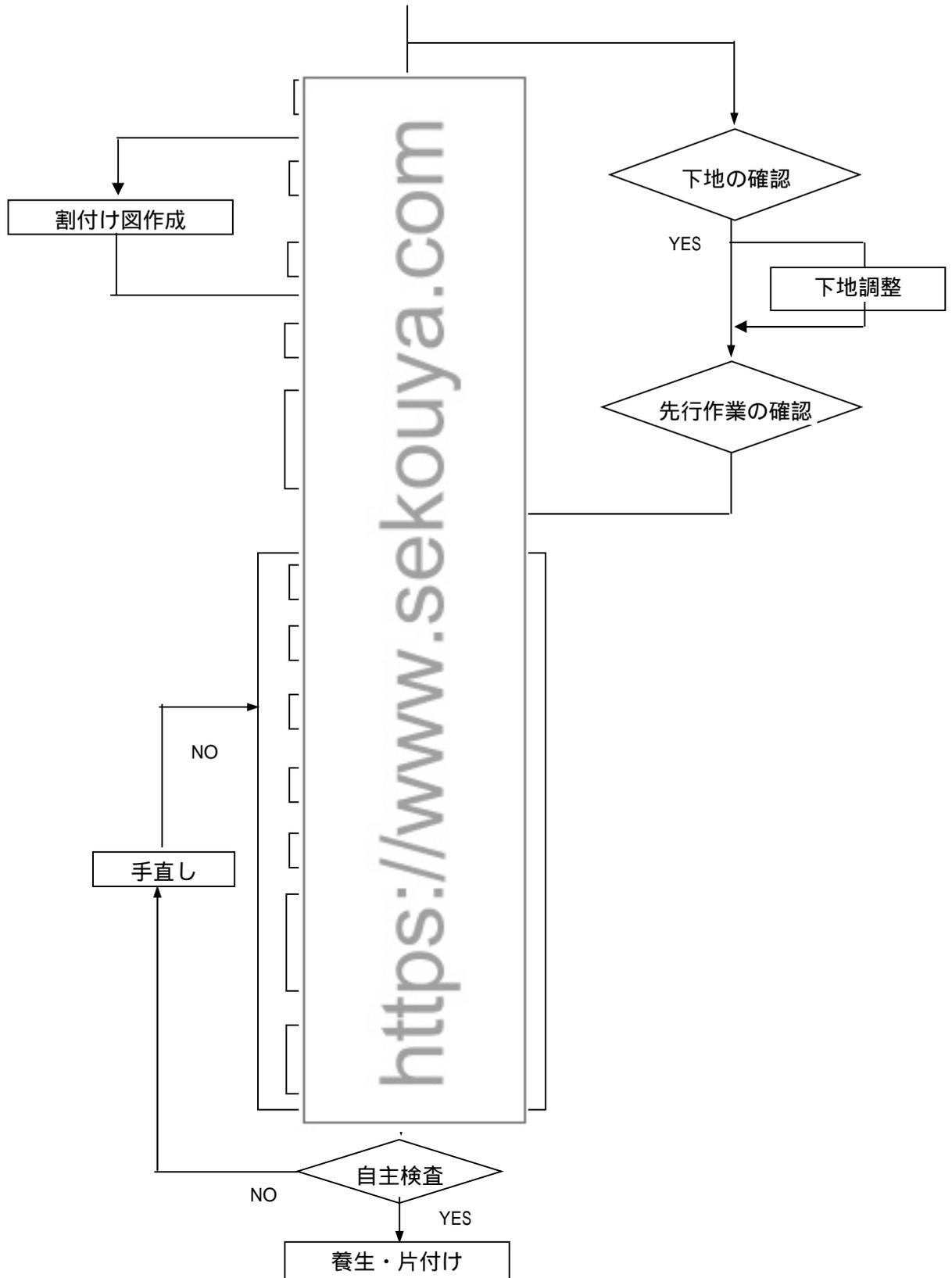
- ( 1 ) 材料の確認、主材料・副材料と確認する。( 品質、規格寸法、
- ( 2 ) 搬入には、仮設または本設の工
- ( 3 ) 保管時は、湿気・汚れ防止上、

様などにつき、職長および元請担当者は見本品との照合)  
 . 各階住戸に搬入する。  
 生を行う。

https://www.sekouya.com

## 5. クロスの施工

### (1) フローチャート



(2) 下地の事前確認および調整作業

壁紙の施工に際しては、下地の欠陥は、仕上げの出来栄に影響を与えるので、下記の検査・確認を入念に行う。修正作業は、専門工事業者にて行うが、修正困難なものについては、元請担当者と調整を行う。

1) 下地の乾燥度

コンクリート面およびプラ  
分に乾燥させる。乾燥度の目  
し、水分計で測定を行う。

における接着用だんご状のモルタルを十  
モルタル面で7~11%の含水率を標準と

2) 下地の状態の検査項目

a. コンクリート・モルタル面

コテむら、凹凸、汚損、剥離  
隅角部の切付けが正しいこと  
コンクリート打放し1面  
がないこと、補修がされて

いこと。

下地面に大きな色違いがないこと  
外部からの水分や湿気の侵入  
関連の設備機械などの埋設

気泡、砂、砂利のかたまりなどの欠陥

めて取付けられていること。

b. プラスターボード面

下地面の目違い、不陸、剥離  
下地取付け用の釘、ビス類  
いるか、防錆処理がなされた  
前記 a. に同じ。

ひずみや汚損がないこと。

されているか、また、下地面より沈んで

3) 下地調整作業

a. 下地表面の調整

表面の異物、汚れ、ほこり  
マジックインキ、サインペ  
のパテで消す。

原因となるため、きれいに取除く。

下地に使われた釘、ビスなど  
その凹凸部は、パテ塗り  
壁・天井画に取付けられた

壁張り後、完全に取除くか、下地と同色

下地面の平滑化

処理を行うとともに、下地面より沈め、  
ペーパーで平滑にする。

下地の目違い、きず、隙間  
色違いの修正

スイッチ、コンセントなどを取外す。

サンドペーパー掛けして平滑化する。

シーラーに着色剤を混ぜて修正する。試験張りにて確認する。

接着面の調整

コンクリート面については、型枠剥離材の残留がないことを確かめ、北・西面の壁や台所の石膏ボード部では、シーラーを2~3倍に薄めて全面に塗布する。

不陸調整

最終仕上げにかかる前に、下地の表面が、乾燥したことを確認するとともに、表面の凹凸

<https://www.sekouya.com>

を調整する。

亀裂の補修

乾燥収縮および構造亀裂などの修正は別途考慮する。

### (3) 割付け

設計上、特に指定がない場合、貼り出しの起点から壁紙の有効巾の寸法を貼り進む方向に順次割付けを行う。特に指定ある場合は、上貼の目地を下貼りの目地が同位置に重ならないように注意する。

- a. 壁紙は、下記の割付けを基本とする。
- b. 壁面への割付けには、張出し幅の寸法を割出した位置に正確に垂線を引く方向に順次割付ける。
- c. 居間.....東壁面の中心から左右に割付けを行う。
- d. 洋室.....壁面は、出入口より印部分を起点として割付ける。
- e. 廊下.....壁面は、玄関正面から張出す。
- g. 壁紙のジョイント位置  
コーナー部では、コーナー部を避けて小梁部分の処理.....梁幅が割付けられるようにする。
- h. 出入口枠まわりの処理  
鋼製枠.....コンクリート  
鋼製枠.....LGS スタッド  
木製枠.....LGS スタッド

上貼の目地を下貼りの目地が同位置に

幅の寸法を割出した位置に正確に垂線を引く方向に順次割付ける。

。天井画は、バルコニーサッシの中央よ

口の側で終わるように張る。天井は、×

張出す。天井は、廊下中央を起点として

とする。

クロス施工後、壁クロスを施工する。

### (4) 材料の点検

施工前に、下記材料の点検を、

業者の各担当者により行う。

- 1) 数量の確認  
指定された壁紙がロス分を考慮しているか。
- 2) 色合せの確認  
色違いの有無、ロット番号の確認
- 3) 柄合せの確認(とくに柄に特
- 4) その他

壁紙など)

目曲がり、プリントむら、きりの有無など。また裏打ちの甘さなどの欠点の有無。

### (5) クロス材の裁断

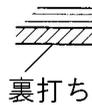
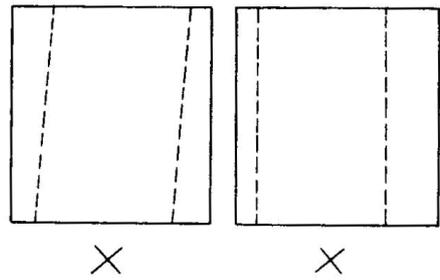
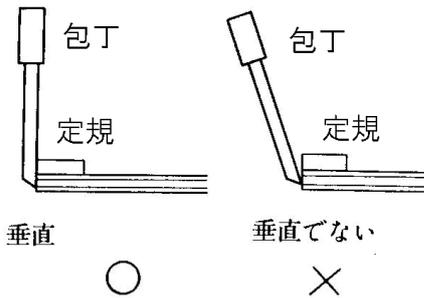
壁装材の長さは採寸した対象面(天井・壁面)の寸法より若干の余裕をみて裁断する。

壁紙は、割付け計画に従って、たるみ・模様などのくい違いのないように裁ち合わせて、下地に張付けるが、壁紙の裁断にあたっては、下記の注意をはらう。

- 1) ジョイントは、重ね裁ちとし、1cm 程度の重ねしろをみる。
- 2) ビニルは、裁断する場合、刃物を当てたとき、縮み性質があるから注意を要す。
- 3) 下地が石膏ボードの場合は、壁紙の接合部の切断は、下地を破損しないような切断方法をとる。
- 4) 長さ方向の裁断.....張る面の寸法より若干長めに裁断する。柄物の場合は、柄合せに必要な柄のリピート分をさらに加えた長さとする。

5) 幅の裁断.....ジョイント  
によって

のないよう正確に裁断する。また、光線  
をはらう。



(縮まれる)

## (6) 張付け作業

### 1) 基本墨の検査

施工図により基本墨を検査確認する。

設備器具その他の開口部位置・寸法を確認

### 2) 先行作業状況の確認

各種先行作業の完了、検査結果おそれのあるものの養生を行う

者に確認の後、既製部分ののりで汚れるなど)

### 3) のりごしらえ

標準的配合表を以下に掲げる。(水 10 部とは、のり 100 に対して水 10 の割合を加えること)

<https://www.sekouya.com>

(重量比)

	でん粉系	酢ビ系	水
まわりのり	80%	20±5%	0~10部
中のり	80%	20±5%	20-30部

- ・接着剤の攪拌は十分平均化する。
  - ・現場で攪拌する場合、床に養生シートなどで養生する。
- 4) のり付け
- ・のりは、むらなく平均につけられる。
  - ・のりの使用量は、80~130g
  - ・のり付け後は5~10分程度養生する。
- 5) 壁紙の水引き
- 壁紙は施工前に裏面に水引き液を塗布し、十分に水引き液を吸い取り、乾燥させておく。
- 6) 張出し
- 壁紙は、割付けの直線に合わせて張出す。
- a. 壁面の場合
- 柄の頭が上方の見切類に正確に位置を調整する。確実に中央部から長手の方向に撫でつけよう注意しジョイント部はローラーで押し付け、ジョイント部はローラーで押し付けはパテベラで押し付ける。
- b. 天井面の場合
- 柄の頭が上方の見切類に正確に位置を調整する。確実に仮貼りから長手の方向に撫でつけよう注意しジョイント部はローラーで押し付け、ジョイント部はローラーで押し付けはパテベラで押し付ける。
- 7) なで付け
- 壁紙は、毛刷毛またはゴムベラでなでつけて張上げる。なでつける際は、なるへそ方向になでる。
- 8) 柄合せ
- 壁紙は、柄を合わせて張りすすむが、部分的でなく、全体の仕上がり状態を確認しながら作業を進める。
- 2枚目からは、柄合せを見て張るが、前の壁紙と合う側ののり付けした面のへりには養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 9) ジョイント押え

<https://www.sekouya.com>

- へりからのが表面に出ないように注意する。
- 2枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 3枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 4枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 5枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 6枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 7枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 8枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 9枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。
- 10枚目からは、前の壁紙の表面が汚れないよう養生テープを張り、前の壁紙の表面が汚れないよう保護する。

重ね裁ち後はローラーで押える。この際あまり強く押えすぎると、その部分だけ変色して見えることがあるので、壁紙の材料によって押え方を加減する。

10) 切付け

切付けは、見切りの線を求めながら、ていねいに正しく切付ける。切付けは、パテベラまたははさみを用い、壁紙によっては、1~2mm 長めに切付け、二度目に正確に切付けて仕上げる。

11) コーナー部

コーナー部分は、捨てのりし、ていねいに目通しよく張上げる。

12) 器具回りの開口部

天井の照明器具まわりなど、開口部の内部に巻込めるよう施工する。

13) 目地および目地棒押え

目地の納まりに注意し、剥がれ防止のためにていねいに仕上げる。

目地棒は、反りや蛇行のないように、取付け前に仕上げておく。

(7) 張上げ後の点検・補修

張上げ後、仕上げ面に付着した埃や汚れを、清潔な布などでぬぐいとり、下記の点をチェックし、問題があれば後処理する。

1) 点検事項

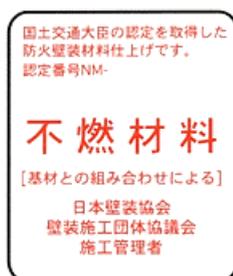
- a. 下地に不陸その他問題は発生しているか。
- b. 張り忘れ、切り忘れ、拭き残しなどがあるか。
- c. 汚れの有無、ジョイント・目地部分・出隅部・大隅部などが確実に処理されているか。

2) 補修

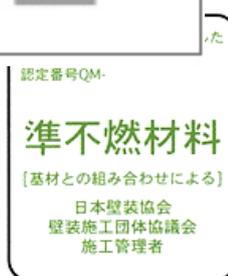
カドの発生、上張りの変色などが発生した場合は、部分的に張替える。

(8) 防火壁紙を使用する場合の

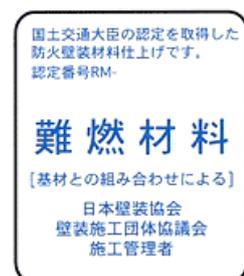
- 1) 張り工法は、原則として「防火壁紙標準施工法」に従う。
- 2) 施工条件については、壁紙の種類によって異なるので、施工者または、施工管理者が壁紙と下地基材の組み合わせにより、防火壁紙標準施工法を認めた上で、認定の表示を行う。
- 3) 壁紙は、張り下地の種類によって異なるので、施工者または、施工管理者が壁紙と下地基材の組み合わせにより、防火壁紙標準施工法を認めた上で、認定の表示を行う。
- 4) 認定マークは、1種類1色とし、施工現場に必ず表示することになっており、竣工検査後も剥がれず表示されていること。



(赤色)

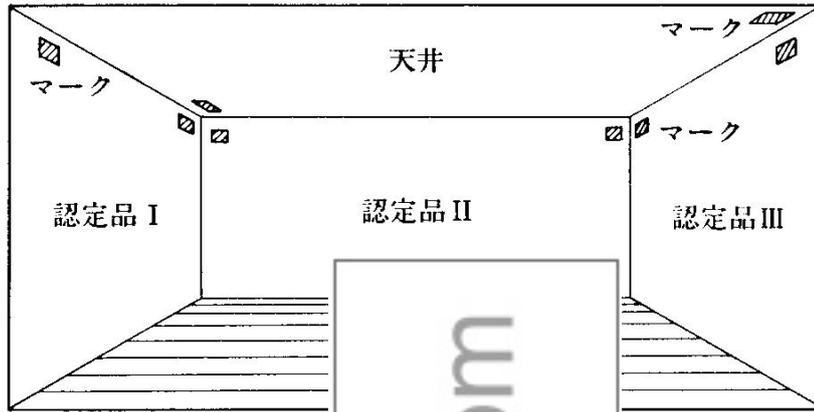


(緑色)



(青色)

<https://www.sekouya.com>



(9) 作業後の養生・片付け

1) 養生

- a. 壁張り後 2 日間は、急
- b. 冷暖房は、クロス材が-
- c. ビニルシートなどで壁面  
損することがあるので

シートの裏面が結露して、クロス材を汚

2) 片付け

- a. 養生紙、シート、テー
- b. 取外したコンセントカ
- c. 残材などは、施工者が

く。

備品類などは、元に戻す。

6. 自主検査

自主検査表によりチェックを行

た場合は速やかに処置を行う。

1) 自主検査 (クロス工事)

	検 査 項	検 査 基 準	備 考
1	仕上げ面に不陸がないか	目 視	
2	枠廻りの切付けは正確か	"	
3	見切廻りの切付けは正確か	"	
4	柄合わせは均一化	"	
5	色違いはないか	"	
6	ジョイントのすき間がないか	"	
7	柱型の貼りかたは正確か	なされているか	

8	入隅の施工はどうか	柱墨部分より 100mm 程度逃げる。	
9	出隅・入隅に浮きはないか	目 視	
10	糊が枠および見切等についたままになっていないか	"	
11	巾木の高さより適切に貼り込まれているか	の 1/3	
12	全体の仕上げの状態はよい	目 視	

## 7. 安全事項

作業所における一般的な安全管理

とくに下記事項について注意を要する。

### 1) 用具・材料など

- ・作業に際しては、足場・脚立を点検する。
- ・作業に使用する器具・足場などを点検して安全を確認してから作業を行う。
- ・作業周辺も含めて溶剤に対しては、適切な取扱いを行う。
- ・保管場所、保管状態は、毎日点検し、必要に応じて換気や防湿などの措置を設ける。

作業状況を確認し、安定した状態で作業を行う。

点検し、使用するとともに、安定した状態

を確認する。

作業場所への出入りができないよう、

### 2) シーラー、接着剤などの溶剤

- ・材料置場、作業周辺の火気厳禁を徹底する。
- ・作業だけでなく、他の関係者にも火気厳禁を徹底する。
- ・換気をよくする。(窓をあける、換気扇を回すなど)
- ・作業が長時間になるときは、定期的に休憩し、きれいな外気で呼吸する。

作業を行う。

作業中、きれいな外気で呼吸する。

### 3) 作業環境

- ・通電している器具類の取扱いに注意する。
- ・火気厳禁、換気の徹底を、関係者に徹底する。
- ・作業は一定時間ごとに休憩し、作業環境を整える。

作業を行う。

作業中、作業環境を整える。

<https://www.sekouya.com>